

と合せた供給高は左の如し。

	生産高	繰越高	計 俵
米	一七、〇六〇、〇〇〇	六、三三〇、〇〇〇	二三、三九〇、〇〇〇
印 度 棉	三、四〇一、〇〇〇	二、〇八七、〇〇〇	五、四八八、〇〇〇
エジプト	一、七二七、〇〇〇	一、五九〇、〇〇〇	三、三一七、〇〇〇
其 他	五、四三〇、〇〇〇	一、〇四三、〇〇〇	六、四七三、〇〇〇
計	三〇、三二八、〇〇〇	一〇、〇五〇、〇〇〇	四〇、三七八、〇〇〇

即ち一九三一—三二年度の供給高は四千百十四萬九千俵に上つたが、今年度の消費高を萬國聯合調査によると二千二百三十二萬三千俵である、これも同一單位に換算すると左の如くなる。

	供給量	消費量	過剰高
米	三、四三〇、〇〇〇	一三、一〇〇、〇〇〇	一三、三三〇、〇〇〇
イ ン ド 棉	五、四三〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、四三〇、〇〇〇
エジプト棉	二、七二七、〇〇〇	一、五九〇、〇〇〇	一、一三七、〇〇〇
其 他	六、四七三、〇〇〇	三、三一七、〇〇〇	三、一五六、〇〇〇
計	一八、〇六〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、九四〇、〇〇〇

そこで右の過剰から消費見込百二十五萬俵を控除すれば残り七百五十萬俵は一九三二年七月末現在の繰越高である。

所が本年度の收穫豫想をみると合衆國農務局公表によれば千百八十萬俵であるから其供給量は米棉二五、〇五〇、〇〇〇俵、其他一六、二〇〇、〇〇〇俵、合計四千百二十五萬俵となる。

つて前年と大差がない、しかし優良棉は比較的少量で劣等棉の量が増大するといふことである。

### ○昭和七年十二月二十八日陸地測量部出版地圖

#### 目録 (三)

- 五萬分一地形圖 修正
  - 帶廣 十六號 幸震 一面 仙臺 六號 關山峠 一面
  - 東京 二號 東京東北部 一面 甲府 七號 甲府 一面
  - 五萬分一地形圖 鐵道補入
    - 弘前 四號 田山 一面
  - 二十萬分一帝國圖
    - 新竹 一面
  - 五十萬分一輿地圖 鐵道補入
    - 名古屋 一面
  - 百萬分一萬國圖
    - 仙臺 一面
  - 百萬分一東亞輿地圖 修正
    - 承德 一面

### 質疑應答

問 氷山に接近すると海水の温度が俄かに上昇する理由。(川越中學、櫻井)

答 海水の水結點は通常零下二度で、氷山の浮游する様な高緯度の地方では海水の温度は屢々零度以下である。然るに氷河から流下した淡水の水塊は温度が零度であるから之に接近した部分の海水は温度零度に近い。故に周囲の温度零下の海水の部分から氷河に向つて進めば温度は微測寒暖計に感ずる程度に上昇する。(H)